

アメリカ心不全学会（HFSA）学術集会以日本心不全学会とのジョイントセッションが開催されました

2013年9月22日から25日までアメリカ合衆国フロリダ州オーランドにおいてアメリカ心不全学会（HFSA）の学術集会被開催されました。約2000名の医師・コメディカルが参加し、毎日多くの口述演題・ポスター発表が行われました。

また、9月24日午前中には、HFSA、日本心不全学会ならびにESC Heart failure Associationとの初めてのJoint sessionが開催されました。本学会の磯部理事長ならびにHFSAのThomas L. Force総裁が座長を務め、計5演題が発表されました。本邦からは東北大学の下川教授が東日本大震災での心不全発症との関連性について「Increased Occurrence of Heart Failure in the Great East Japan Earthquake」の演題名で発表されました。これまでの災害医療の報告では心不全が増加したという報告はなく、今回の発表でその関連性が初めて示され、質疑応答も非常に盛り上がりました。

その他、本セッションでは利尿薬耐性、貧血や加齢と心不全との関連性、心臓カヘキシーという話題性のあるトピックで演題発表が行われました。参加者は早朝のセッションということで150名程度と限られてはいましたが、討議も活発で有意義なジョイントセッションとなりました。

来年度のHFSA学術集会被は9月14日から17日の日程でラスベガスにて開催される予定です。本学会としては来年度以降もジョイントセッションの開催も引き続き計画する予定です。

また、大宮にて本年11月28日から30日で開催予定の第17回日本心不全学会学術集会被でもHFSAならびにESC Heart Failure Associationとのジョイントセッションを開催いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

